

常に助かったと授業者から後日聞いた。/授業後の復習を兼ねて、カードのアドレスにアクセスさせることが出来るので、良いと思いました。/プログラムの終わりに配布しましたが、終わってから実際の HP を生徒に見せてあげたら、より親しみがもてたのではないかと思います。次に生かしたいと思います。

#### ⑦ その他 (9.1%)

回答例：WYSH の授業の中で、担任から生徒に学校内で相談しにくい場合は、カードに記載されている相談先もあることを伝えて配布してもらいました。/生徒が安心して自分の不安や心配事を解消できる機関のため、私自身も安心して紹介することができました。

#### ◆生徒の反応(養護教諭から見た)

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため(携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない)、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した 29 校のうち、予防サイトについての自由記載のあった 22 校についての帰納的内容分析を実施した。

#### ① アクセスが簡単・気軽なカード (18.2%)

回答例：すぐに携帯へ登録した男子生徒もいた。/カードの内容をしっかりと読んでいました。携帯電話からアクセスできる身近さが良かったようです。/携帯ですぐチェックが出来るということで、興味深くみていた QR コードリーダーといった、生徒の関心の高い表記も入っておりよかったと思う。/保健室にあるほかのカード「インフルエンザの予防」「頭痛のはなし」「生理痛の話」などと一緒においておいたので、欲しい生徒は自然な形でスーッと「先生、ここのカードもらうでー」と気軽にもっていかれたとおもいます。

#### ② アクセス後に報告 (13.6%)

回答例：ほんの数名だが、「サイトにアクセスしてみたよー!」と報告してくる生徒がいた。/カードをもう少し早く手にしていたかったという生徒がいた。失敗した経験のある生徒はアクセスしてみたと言っていた。/サイトを見たと言ってくれた生徒もいました。また、困っている友達に教えたと言ってくれた生徒もいました。

#### ③ 友人への紹介 (9.1%)

回答例：サイトを見たと言ってくれた生徒もいました。また、困っている友達に教えたと言ってくれた生徒もいました。/上記のように慣れている、抵抗がないという点からも、あまり反響としてはあげられていない。ただし、友達にも紹介したと言う声は聞かれた。

#### ④ カードへの関心の強さ (22.7%)

回答例：カードの内容をしっかりと読んでいました。携帯電話からアクセスできる身近さが良かったようです。/知りたいことがある人は利用し、今必要がない人はこの先知りたいことや困ったことがあったら利用できるようなもっているよう説明しながら配布をした。カード配布時、生徒は大切に胸ポケットや生徒手帳へしまっていた。紹介後、今までは自分でインターネットを見て調べようとしても、どこのサイトが正しいかわからず、信用できなかったが信頼できるサイトを知ることができてよかったと話す生徒が多数いた。/興味を持ってカードを見ている生徒が多かったようです。/このようなサイトをはじめ知った生徒ばかりだったので、興味をもっていました。/性について悩んでいて、解決の糸口が欲しい生徒はうれしそうに受け取るが、危険な状況にあってもあまり危機感を持たない生徒はカードを渡してもすぐに自分のバッグに入れてしまった。

#### ⑤ もっと早く欲しかった (9.1%)

回答例：カードの対する反応はあまりなかった。1年生のときに欲しかったと言う声があった。/カードをもう少し早く手にしていたかったという生徒がいた。失敗した経験のある生徒はアクセスしてみたと言っていた。

#### ⑥ 相談・気づきのきっかけ (9.1%)

回答例：授業後、対象学年であった 2 年生女子 1 名から妊娠にかかわる相談を受けました。授業を実施した翌日の相談であったため、授業やカードを配布したことが、相談のきっかけにつなが

ったと思います。/メールすることが面倒という反応の生徒もいた。性に関する知識に自身が会った生徒もやってみると思い違いがあったりし、気付くきっかけとなった。女子生徒はわいわいキョーキョー言いながら楽しそうにやっていた。

⑦ その他 (9.1%)

回答例：生徒の中には同じような機能を持つサイトをすでに利用していて困ったときはすぐそこにアクセスしているという者もいました。そのような生徒にとっては内容より使い慣れたほうを選ぶ傾向が強く、もっと早い時期に WYSH のサイトに出会わせてあげたかったなあと思いました。/サイトにアクセスした生徒はいたようだが、大人に聞けないけど知りたい情報（たとえば、他の情報では得られないけれど深い細かい内容）を載せてほしいようだ。

◆変化(養護教諭から見た)

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため（携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない）、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した 29 校のうち、予防サイトについての自由記載のあった 22 校についての帰納的内容分析を実施した。

① 知識/リスク認知の向上/行動変容 (13.6%)

回答例：予防サイトを利用した後、自分の行動がとても危険であることを認識したという報告があった。/「とっても分かりやすく楽しく、知識が確認できた」と後日感想を言ってくれた/性感染症で治療を受けた生徒がいた。通院の苦痛を感じ、無防備な性行動を反省し、安全な性行為についての情報が欲しいと来室した。この予防サイトを紹介したところ、すぐにサイトにアクセスした。「信頼できるサイト。詳しいことが沢山紹介されている。性感染症や妊娠の心配をしないよう、配慮できるようになった」という報告があった。

② 相談のきっかけ (4.5%)

回答例：カードを使用したことをきっかけに自分の性に関する悩みを相談してくれるようになった。

③ その他 (4.5%)

回答例：カードは配布したが、カードが話題に上がるようなことはほとんどなかった。

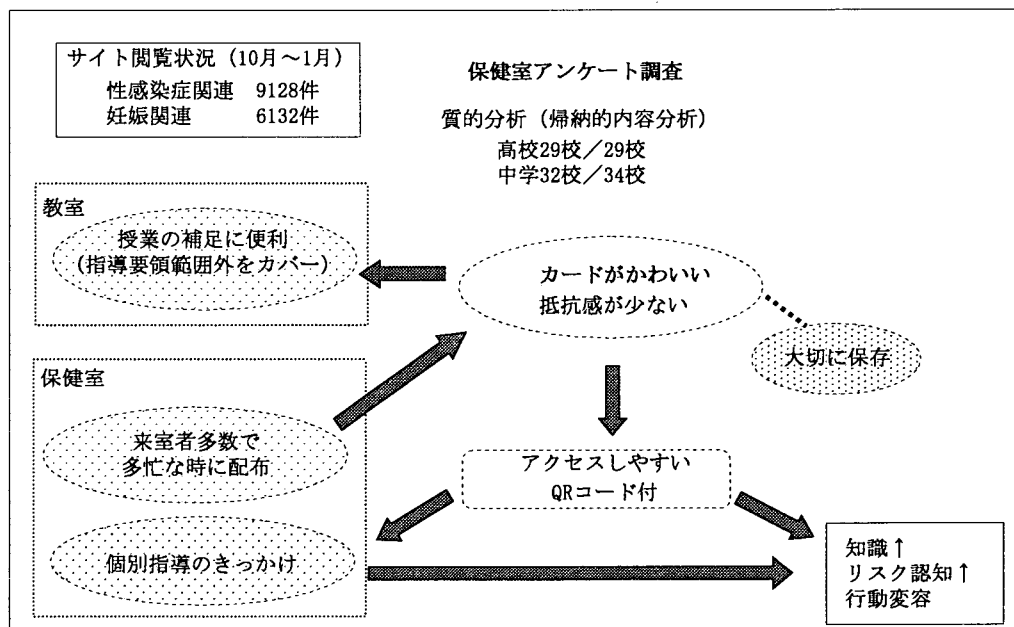


図 6. 予防サイト/カードの感想

## (2)「恋愛危険度チェック」サイト/カード

昨年度の全国保健室調査の結果より、養護教諭が極めて多忙な状況におかれていることが明らかとなった。相談業務うまくいかない最も大きな理由は時間がとれないという理由とプライバシーを守る空間がないという、時間的空間的制約であった。空間的な制約に関しては我々が関与できる範疇を超えることから、時間的制約の中での相談活動実施を考慮し、本グループでは、特に交際中の生徒自身が遊び感覚で自分のリスク認知ができるように、「恋愛危険度チェック」サイト（携帯電話からアクセス可能）を開発した。



図7. 「恋愛危険度チェック」サイト/カード

### ■「恋愛危険度チェック」サイトカード（プロセス評価）

①配布の有無：プロジェクト参加校のうち「恋愛危険度チェック」サイトカードを生徒に配布していたのは、中学校 38.2%、高校 69.0%で高校では7割近くで配布されていた。

②配布の方法：中学校では、「保健室での手渡し」76.9%、「保健室で自由にとれる」23.1%とほとんどが保健室内での情報提供の際に利用されていた。一方、高校でも、「保健室での手渡し」が57.1%と最も多く、「保健室で自由にとれるようにした」42.9%と予防サイトカードとは異なり、授業時の一斉配布ではなく保健室での利用が主であった。

③利用者の属性の特徴：性別では、中学校、高校ともに、圧倒的に女子生徒の利用が多かった。利用した学年はWYSH教育の対象学年である中学3年生と高校2年生が多かった。

### ■「恋愛危険度チェック」サイト特徴および開発目的（期待される効果）

①主要な対象は交際中の生徒（低年齢層）であること：生徒を主要な対象としたため、一般向けサイトとは異なり、性行為の未経験者や中学生なども多数アクセスする可能性があるため、その点を考慮し、使用する用語が利用者に抵抗感を与えないように配慮した。

②交際中あるいは好きな相手がいる生徒自身がアクセスすることを想定：それによって、養護教諭の相談のきっかけに利用できることを期待した。

③携帯アンケート：同じ対象者に2回アクセスしてもらうことによって、前後比較を行い、このサイトを効果を測定することも目的とした。

### ●対象者の守秘対策

携帯アンケート調査を実施する上で重要なことはセキュリティの確保である。調査研究専用のホームページは、セキュリティ機能の付加されたhttpプロトコルであるSecure Socket Layer (SSL)によって保護し、研究参加者が回答したデータを暗号化してサーバに送信、情報漏洩防止策とした。このホームページは他のインターネットコンテンツとの共有は一切なく、本研究専用として運用した。

### ●信頼感の促進への配慮

- ① また研究参加者が本ホームページに参加（登録）する際に調査研究団体（WYSH）についての説明文を閲覧させるという手順を踏むことにより、研究参加者へ安心感を持たせる対策とした。
- ② 告知方法を養護教諭からの直接の紹介、もしくは本質問票調査告知用に作成し、養護教諭のみに配布した名刺サイズのカード（URL および QR コード記載）を保健室に設置し生徒に紹介するという限られた方法に限定することにより、本ホームページが安心して利用できることを研究参加者に知らせた。

### ●対象外のアクセス者への対応

10 代以外の人からのアクセスについての対処法であるが、ホームページに「10 代のための」という文言を明記することにより対策とした。さらに 10 代の若者用に企画されたインターネット調査であるため、結果コメントや質問票の内容が 10 代の人以外にはそぐわないので、10 代以外の人回答した場合にクレームの対象とならないよう、上記の文言を加えることで対処した。

### ●複数回アクセス者の識別方法

携帯アンケート調査での複数回アクセス者の識別方法には下記の方法を用いた。IP アドレスによらないクライアントの識別機能を有し、研究参加者の詳細なアクセス履歴を取得できる cookie 機能を用いた。2 回目以降の回答分については同一人物からの回答であるかを cookie 機能、および必須入力である基本属性（県名、性別、年齢）から判別した。

### ●複数回アクセスのための工夫

携帯アンケートは同一対象者が複数回（2 回以上）、調査に参加し、その結果を前後比較するという特性を持っているため、一対象者が再度携帯アンケートに回答するための工夫が必要である。そのためにアンケート調査ではポイント制を導入し、その加算ポイント数に応じてデジタルアイテムを贈呈し、対象者の複数回参加を促す対策とした。詳細は以下のとおりである。

デジタルアイテムとは、携帯電話のみで使用可能な「静止アイコン・アニメーションアイコン」「静止待ち受け・アニメーション待ち受け」「テンプレート」の 5 アイテムである。アイコン等のキャラクターはすべてオリジナル製作した。また各アイテムごとの必要ポイント数であるが、アイコンは（静止・アニメーション共に）一つダウンロードするために 10 ポイント、テンプレートは 20 ポイント、待ち受け（静止・アニメーション共に）30 ポイントとした。

次にポイントがどのようにして対象者に加算されるかであるが、ポイント付与の仕組みは次のとおりである。初回登録で 30 ポイント付与、1 回目のアンケート回答で 10 ポイント付与、2 回目のアンケート回答で 50 ポイント付与、また友人にこのサイトを紹介し、その友人が本サイトに登録した時点で紹介者にのみ 20 ポイントが付与されるものとした。

上記のように 2 回目アンケートの回答時のポイント加算得点が最高となっており、対象者に複数回のアンケートへの参加を促す工夫とした。

また同一回答者がデジタルアイテムを獲得するために必要な日数を開けず、2 回以上連続的に回答するのを防ぐため、サイトに「アンケートには何度チャレンジすることができますが、ポイント加算は、前にチャレンジしてから必要日数を経過しないと付与されません」と明記した。

必要日数がたち、次のアンケート回答時期が迫っていることを対象者に知らせる手段として、1 回目アンケートに答えた対象者全員に「次のアンケートに回答する時期が迫っていること、および次のアンケートに回答すると高得点ポイントがもらえ、デジタルアイテムが多数獲得できること」を明記したメールを送信した。

参加時期のばらつきによって「2 回目アンケートの時期が迫っている旨の「メール」の送信漏れが起こることを防ぐため、参加した対象者にひとりひとりにメールを送るのでなく、ある一定の期間を定め、その期間内での参加対象者に一括送信し、参加時期のばらつきによるメール送信の漏れにも対処した。

## ■質問項目

質問数は携帯電話という性質上、20問で短い質問とした。


1. あなたの住んでいる地域でも、10代で中絶する人が多い。
2. 妊娠する人と、性病にかかる人どっちが多い？
3. 性病にかかっている人も、ほとんどの人は症状がない
4. クラミジア、サルモネラ、性病はどっち？
5. 性病にかかりやすいのは、男性？女性？
6. 性病にかかりやすいのは、10代の女性、20-30代の女性？
7. 性病を治療しないと、不妊になることがある
8. 口にも性病がうつることがある
9. 性病にかかると、エイズに何倍もかかりやすくなる
10. 性経験のある高校生のうち、10人に1人が性病にかかっている
11. エイズにかかっても、きちんとお薬を飲むと普通に近い生活ができる
12. 日本全国でエイズが増えている。
13. エイズ検査は、地元でなくてもどこでも受けることができる
14. あなたは、今、つきあっている人がいますか？
15. あなたは、今、幸せですか？
16. あなたは、性経験がありますか？
17. 毎回、コンドームを使っていますか？
18. あなたは、今、性病かもしれないと思っていますか？
19. 今、赤ちゃんが欲しいと思いますか？
20. あなたの生活は充実していますか？

\*危険度の採点方法：一部の質問は採点から除外し、質問項目には重み付けを行い、100点満点が最も危険度が高く、50点以上は要注意とした。

図 8. 「恋愛危険度チェック」(携帯画面)

**恋愛危険度  
チェック**

2回のチェックで  
最大アイテムGET!!



このページをブックマークしてくだ  
さい!!!

◆登録済みの方◆

ニックネーム:

パスワード:

[パスワードを忘れた方はこちらか  
ら](#)

◆初めての方◆

利用規約に同意の上、「新規登録」  
を押し、空メールを送信してくだ  
さい。

◆恋愛危険度チェック◆

1. あなたの住んでいる地域でも  
10代で中絶する人が多い?  
 はい  
 いいえ
2. どっちが多い?  
 妊娠する人  
 性病にかかる人
3. 性病にかかっている人もほとん  
どは症状がない?  
 はい  
 いいえ
4. 性病はどっち?  
 クラミジア  
 サルモネラ
5. 性病にかかりやすいのはどっ  
ち?  
 男性  
 女性
6. 性病にかかりやすいのはどっ  
ち?  
 10代の女性  
 20-30代の女性
7. 性病を治療しないと、不妊に  
なってしまう?

◆あなたの点数は\*\*＊点です◆

コメント  
性病の知識はかなりあります。予  
防が全く不十分です。できるだけ  
早く専門の機関を受診しましょう  
きたらパートナーと一緒に性病の  
検査を受けることをお勧めします。  
これからもずっと幸せが続くよう  
に・・・心と体を大切に、自分のい  
いところをたくさん見つけて充実した  
生活を送ってください。

もっと詳しく知りたい人は WYSH  
ケータイサイトへ(別のサイトに  
ジャンプします。)


- [マイページへ](#)
- [友達に教える\[20pt GET!\]](#)
- [オマケをもらう](#)

(C) 2007 WYSH


〇〇さんのマイページ

◆現在\*\*pt◆

◆チェック回数◆



1回目



2回目

◆メニュー◆

- [恋愛危険度チェック\[50pt GET!\]](#)
- [友達に教える\[20pt GET!\]](#)
- [オマケをもらう](#)

サポートメニュー

- [お問い合わせ](#)
- [プライバシーポリシー](#)
- [利用規約](#)

## 【携帯アンケート結果】

「恋愛危険度チェック」に2回アクセスした人の総数は、240人（男性74人、女性166人）であった。そのうち、一日以内に2回目のアンケートをした人は97人（男性33人、女性64人）（40.4%）で、一日以上経過してからアンケートを実施した人の総数は143人（男性41人、女性102人）（59.6%）であった。1回だけのアクセス者総数は305人であり、総登録者545人のうち55.9%と半数以上が一回だけのアクセスにとどまっていた。

一日以内の回答者も一日以上たってからの回答者の回答も、傾向が同じであったため、解析には全データを使用した。

**統計学的分析：**計算にはSPSS ver. 12を使用し、介入の前後で対応のあるデータであるため、McNemar検定を用いた。

### (1)対象者の属性(表1)(表2)

アクセス者の在住都道府県を、表1に示す。それによると、男子では北海道から沖縄県まで22都道府県からのアクセスがあり、アクセス数が多かったのは、山口県、兵庫県、大阪府、和歌山県であった。一方女子では、北海道から沖縄県まで29都道府県からのアクセスがあり、アクセス数が多かったのは大阪府、山口県、兵庫県、長野県であった。

次に、年齢分布を表2に示す。アクセス者の年齢分布は、男子では15歳から33歳で、女子では12歳から48歳で、男女とも17歳が最も多かった。携帯アンケートに参加した男子の平均年齢は17.8歳±3.0、女子は17.5歳±3.5であった。

\*若年層以上のアクセスの一部は、学校の養護教諭によるサイト内容と安全性確認のものと思われる。

表1. 対象者の在住都道府県

	男子 (n=74)		女子 (n=166)	
	人数	%	人数	%
北海道	3	4.1	5	3.0
青森県	1	1.4	0	0.0
岩手県	1	1.4	2	1.2
宮城県	4	5.4	5	3.0
群馬県	6	8.1	5	3.0
埼玉県	0	0.0	3	1.8
東京都	2	2.7	1	0.6
神奈川県	0	0.0	2	1.2
長野県	2	2.7	13	7.8
愛知県	1	1.4	2	1.2
富山県	0	0.0	1	0.6
静岡県	0	0.0	6	3.6
三重県	5	6.8	6	3.6
滋賀県	2	2.7	3	1.8
京都府	0	0.0	6	3.6
奈良県	1	1.4	1	0.6
和歌山県	8	10.8	9	5.4
大阪府	8	10.8	32	19.3
兵庫県	9	12.2	22	13.3
鳥取県	1	1.4	0	0.0
岡山県	3	4.1	6	3.6
広島県	1	1.4	4	2.4
山口県	10	13.5	25	15.1
香川県	1	1.4	1	0.6
高知県	0	0.0	1	0.6
福岡県	1	1.4	1	0.6
熊本県	3	4.1	0	0.0
宮崎県	0	0.0	2	1.2
沖縄県	1	1.4	2	1.2

表2. 対象者の年齢分布

年齢	男子 (n=74)		女子 (n=166)	
	人数	%	人数	%
14歳以下	0	0.0	11	6.6
15歳	7	9.5	15	9.0
16歳	16	21.6	30	18.1
17歳	25	33.8	52	31.3
18歳	11	14.9	25	15.1
19歳	4	5.4	14	8.4
20歳以上	11	14.9	19	11.4

## (2)知識の質問(表3)(表4)

STI/妊娠/HIV 関連の知識を尋ねた。1回目と2回目の正解率の違いを男女別に表3に示す。質問した13項目のうち、統計的に有意の上昇が見られたのは、「地元でも10代女性の中絶が多い」の1項目であった。さらに、女子では、「地元でも10代女性の中絶が多い」「口にも性感染症がうつる」「性経験のある高校生の10人に1人は性感染症」の3項目で有意の上昇が観察された。

一方、今回の「恋愛危険度チェック」サイトの対象者の正解率と、今年度のWYSHプロジェクト(集団教育プロジェクト)参加校の全国の高校生の正解率との比較を表4に示した。それによると、今回の対象者は、「地元の中絶率」の正解率以外は、全国の高校2年生より平均40%前後(15-60%)高く、正解率が一般の若者よりも異常に高い(男子82%、女子87%)ことが明らかとなった。このことから、今回の対象者は、①WYSH教育後の生徒である、②携帯アンケートの知識の質問を答えるときに、自分が知っていることを答えたのではなく、予防サイトや友人等の情報源から情報を入手して回答した等の可能性が推測される。以上をまとめると、今回の「恋愛危険度チェック」サイトは顕著な効果が観察されなかった背景には、1回目の知識の正解率が極めて高いというシーリング効果が影響している可能性が示唆された。

表3. STI/HIV/妊娠関連知識の正解率

質問項目	男子			女子		
	事前 n=74	事後 n=74	差	事前 n=166	事後 n=166	差
1. 地元でも10代の中絶多数	36.5	51.4	14.9 **	41.6	63.3	21.7 **
2. 妊娠と性感染症はどちらが多い?	44.6	37.8	-6.8	47.6	37.3	-10.3
3. 性感染症は無症状が多い	70.3	68.9	-1.4	76.5	78.9	2.4
4. 性病はどちら? (クラミジア・サルモネラ)	94.6	93.2	-1.4	91.6	94.0	2.4
5. 男性と女性、性感染症にかかりやすいのは?	71.6	81.1	9.5	88.6	86.7	-1.9
6. 10代女性は、成人女性よりもSTIにかかりやすい	91.9	87.8	-4.1	88.6	91.6	3.0
7. STIを治療しないと不妊症の可能性	89.2	90.5	1.3	91.6	92.2	0.6
8. 口にもSTIが感染	67.6	68.9	1.3	59.0	69.3	10.3 **
9. STIにかかるとHIVにかかりやすくなる	75.7	75.7	0.0	88.6	88.0	-0.6
10. 高校生、10人に1人が性感染症	70.3	78.4	8.1	75.9	83.7	7.8 *
11. HIV感染しても、治療薬で普通に近い生活可能	78.4	87.8	9.4	87.3	85.5	-1.8
12. 日本全国でエイズが増加	95.9	97.3	1.4	98.2	94.6	-3.6
13. エイズ検査は、地元でなくても受けられる	93.2	94.6	1.4	90.4	93.4	3.0

\*\* : P<0.01、\* : P<0.05

表4. 性関連知識の正解率の比較

共通する質問項目	「恋愛危険度チェック群」		WYSH参加校		両群の差	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1. 地元でも10代の中絶多数	36.5	41.6	46.2	52.6	-9.7	-11.0
3. 性感染症は無症状が多い	70.3	76.5	34.9	34.5	35.4	42.0
7. STIを治療しないと不妊症の可能性	89.2	91.6	32.9	35.3	56.3	56.3
9. STIにかかるとHIVにかかりやすくなる	75.7	88.6	30.5	28.6	45.2	60.0
10. 高校生、10人に1人が性感染症	70.3	75.9	29.5	27.8	40.8	48.1
11. HIV感染しても、治療薬で普通に近い生活可能	78.4	87.3	23.8	23.8	54.6	63.5
12. 日本全国でエイズが増加	95.9	98.2	78.6	82.4	17.3	15.8
13. エイズ検査は、地元でなくても受けられる	93.2	90.4	78.4	77.7	14.8	12.7



### (3)対象者の交際状況/性関係(表5)(表6)

「あなたは、今、つきあっている人がいますか」と現在の交際状況を尋ねた(表5)。それによると、現在、交際している人の割合は、1回目回答時で、男子56.8%、女子62.7%、2回目回答時は男子62.2%、女子63.3%と男女とも約6割が現在交際中であった。WYSH参加校の高校2年生の全国平均では、現在交際中の人は、男子18.1%、女子24.7%であることから、本サイトへのアクセス者は(全員が高校2年生ではないため、比較には限界があるが)、サイトのネーミングの関係もあり、現在交際中の生徒に偏っている可能性が示された。

次に、性経験の有無を尋ねた(表6)。それによると、性経験者の割合は、1回目回答時で、男子63.5%、女子57.8%、2回目回答時は男子64.9%、女子60.8%と男女とも約6割が性経験を有していた。WYSH参加校の全国平均では、性経験者は、男子14.0%、女子22.3%であることから、本サイトへのアクセス者は(全員が高校2年生ではないため、比較には限界があるが)、性経験を有する生徒に偏っていることが示された。本来、このサイトの目的は、学校の予防教育だけでは、情報の不足する高ニーズの若者(生徒)を対象として作成したので、利用者層に関しては我々の当初の目的は達成されたと考えられる。

表5. 交際状況

	男子 (n=74)			女子 (n=166)		
	事前	事後	差	事前	事後	差
交際している	56.8	62.2	5.4	62.7	63.3	0.6
交際していない	43.2	37.8		37.3	36.7	

表6. 性経験率

	男子 (n=74)			女子 (n=166)		
	事前	事後	差	事前	事後	差
性経験あり	63.5	64.9	1.4	57.8	60.8	3.0
性経験なし	36.5	35.1		42.2	39.2	

### (4)対象者の予防行動/リスク認知(表7)(表8)

対象者にコンドームの使用状況を尋ねた(表7)。それによると、毎回使用者の割合は、1回目回答時で、男子62.5%、女子50.0%、2回目回答時は男子68.8%、女子55.8%と男女とも約6%前後のコンドーム常用率の上昇傾向が示された。

次に、「今、自分が性感染症に感染しているかもしれないと思いますか」という現在の性感染症リスク認知の程度を尋ねた(表8)。それによると、リスク認知者の割合は、1回目回答時で、男子13.5%、女子16.3%、2回目回答時は男子14.9%、女子18.7%と男女とも約1-2割が性感染症罹患のリスクを認知していた。しかしながら、前述のコンドーム使用状況によると、コンドーム不完全使用者が約3-5割存在することから、性感染症に関してほぼ満点ををとるほどの知識を有していても、十分に自分のリスクとは捉えられていない可能性が示唆された。

表7. コンドーム使用状況

	男子			女子		
	事前 48人	事後 48人	差	事前 96人	事後 104人	差
毎回使う	62.5	68.8	6.3	50.0	55.8	5.8
使わないときもある	27.1	16.7	-10	37.5	30.8	-6.7
まったく使わない	10.4	14.6	4.2	12.5	13.5	1.0

表8. 性感染症に対するリスク認知

	男子 (n=74)			女子 (n=166)		
	事前	事後	差	事前	事後	差
感染の可能性あり	13.5	14.9	1.4	16.3	18.7	2.4
感染の可能性なし	86.5	85.1		83.7	81.3	

**(5)対象者の現在の妊娠願望(表 9)**

対象者に「今、赤ちゃんが欲しいと思うか」を尋ねた(表 9)。それによると、現在、子どもが欲しいと思っている人の割合は、1 回目回答時は男子 27.0%、女子 30.7%と 3 割前後にも達していた。そこで、「今、赤ちゃんが欲しいと思いますか」に対し、年齢の高い層で妊娠希望者が多く、全体の平均に影響している可能性もあると考えられるため、17 歳以下とそれ以上の 2 群に分けて、比較した。それによると、17 歳以下の若年層低年齢群では、妊娠希望者は男子 31.3%、女子 38.0%と 3-4 割であるのに対し、17 歳より上の若年層高年齢群では、男子 23.1%、女子 20.7%と 2 割程度であり、むしろ年齢の低い群に現在の妊娠に対する希望者の割合が高いことが示された。しかし、「今、赤ちゃんが欲しいと思いますか」という質問が単なる恋愛中のあこがれや夢と捉えられている可能性もあるため、コンドーム使用状況とのクロス集計を実施した。その結果、コンドームの毎回使用者割合は、女子では 17 歳以下群では、妊娠希望群の 21.6%、希望しない群では 32.2%と 10%以上使用率が低く、17 歳を超える群でも、妊娠希望群は 31.4%、希望しない群は 36.5%であり、程度の差はあるが、妊娠を希望している群の方が、実際にコンドームを使っていないことが示された。これに対し、男子のコンドーム毎回使用者の割合は、17 歳以下群では、妊娠希望群の 45.0%、希望しない群では 38.9%と妊娠希望群の方がむしろ高く、17 歳を超える群でも、妊娠希望群は 65.0%、希望しない群は 37.0%であり、年齢に関わらず、妊娠を希望している群の方が、逆にコンドームを使っていることが示され、男女で大きな意識差があることが示された。ただ、ここで、17 歳以下の妊娠希望群は、在学中でもあり、現実には生まれた子どもを育てることはかなり困難であると考えられるが、彼らが、どのような考えで妊娠を望んでいるのか(避妊をしない=性感染症/HIV 予防もしないという状況)を調べることで、今後の検討課題であると考えられた。

表 9. 現在、赤ちゃんを欲しいか

	17 歳以下						17 歳より年長					
	男子 (n=48)			女子 (n=108)			男子 (n=26)			女子 (n=58)		
	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差
欲しい	25.0	31.3	6.3	33.3	38.0	4.7	30.8	23.1	-7.7	25.9	20.7	-5.2
欲しくない	75.0	68.8		66.7	62.0		69.2	76.9		74.1	79.3	

(6)対象者の幸福感/充実感(表 10)(表 11)

対象者に「あなたは、今、幸せですか」と現在の幸福感を尋ねた(表 10)。それによると、現在、「幸せ」と感じている人の割合は、1 回目回答時で、男子 56.8%、女子 49.4%、2 回目回答時は男子 60.8%、女子 56.0%と男女とも約 5-6 割近くが幸福感を有しており、本サイトの介入後の方が、約 5%前後幸福感が上昇している傾向が示された。

次に、「あなたの生活は充実していますか」と現在の生活に対する充実感を尋ねた(表 11)。それによると、「充実している」と感じている人の割合は、1 回目回答時で、男子 50.0%、女子 36.7%、2 回目回答時は男子 63.5%、女子 44.6%と男女とも約 5 割前後が充実感を有しており、介入後の方が、約 1 割前後の充実感の増加傾向が観察された。以上の結果より、今回のサイト利用者は、精神的に不安定な状況からリスクの高い行動をとっている若者というよりも、精神的にはかなり安定した状態の性経験者であり、サイト利用後はより精神的に安定した状態に移行している可能性が示唆された。

表 10. 現在の幸福感

	男子			女子		
	事前 74 人	事後 74 人	差	事前 166 人	事後 166 人	差
幸せ	56.8	60.8	4.0	49.4	56.0	6.6
まあまあ幸せ	20.3	17.6	-2.7	27.7	19.9	-7.8
ふつう	17.6	14.9	-2.7	11.4	12.7	1.3
不幸せ	5.4	6.8	1.4	11.4	11.4	0.0

表 11. 現在の生活の充実感

	男子			女子		
	事前 74 人	事後 74 人	差	事前 166 人	事後 166 人	差
充実している	50.0	63.5	13.5	36.7	44.6	7.9
まあまあ充実している	39.2	33.8	-5.4	53.0	44.6	-8.4
充実していない	10.8	2.7	-8.1	10.2	10.8	0.6

## ■保健室アンケートの結果

保健室プロジェクトに参加した養護教諭に対し、質問紙調査を実施し、予防サイトカードを使用した感想（自由記載）を尋ねた。これらの自由記載の質的データの帰納的内容分析を行った。但し、時間的な制約から、本報告書には、初期段階の分析結果の概要のみを掲載するにとどめる。

### (2)「恋愛危険度チェック」サイト/カードについて

#### ◆先生の感想

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため（携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない）、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した29校のうち、「恋愛危険度チェック」についての自由記載のあった15校についての帰納的内容分析を実施した。

#### ①ネーミングの魅力・関心 (33.3%)

回答例：「恋愛危険度チェック」というタイトルに興味を持つ生徒が多かった（「予防サイトカード」より人気があった）。/「恋愛」という言葉にひかれてか、予防サイトのカードよりも反響が早かった。/予防サイトの感想と同様である。「恋愛危険度チェック」というネーミングに興味関心を持つ生徒は多かった。/彼氏、彼女がいる生徒は占い感覚で実際にチャレンジできると思った。/保健室で手渡すタイミングが図れず、カードを自由に取れる場所においてみた。女子生徒のほうが関心が強いようで、男子生徒の受け取りは1人もいなかった。

#### ②恋愛相談に利用 (13.3%)

回答例：カップルで来室した生徒や恋愛相談に来た生徒に対して配布するケースが多かった。/恋愛に関する相談を受けた時に渡すことができ、すぐ教えた事を忘れてしまう生徒に復習をさせる機会ができたと思った。

#### ③様々な配布が可能 (20.0%)

回答例：授業の中でカードについて紹介し、必要なら取りに来るように話した。/最後に手渡した。例年1年生に実施しているエイズLHRで使用したいと思った/予防教育授業が1コマしかとれないので、より詳しく知りたい生徒や疑問を質問できない生徒がカードにあるサイトを利用していたので、とても効果的にタイムリーにカードが使用できたので非常に助かったと授業者から後日聞いた。

#### ④相談に利用しやすい (20.0%)

回答例：リスクの高い生徒に「あなたは危険だから」とはいえない。でもカードを利用することで自分の危険性を認識してもらえてよい。/保健室に来室した生徒から、異性との関係や性感染症の相談を受けたとき、保健室に在室していた生徒が多く、話しにくい環境であったため緊急な対応が必要でないことを確認し、気軽に相談したり、情報を得られる学外のアクセス先の紹介でカードを利用しました。/予防サイトカードと同様、安心して紹介できると言う点で抵抗なく生徒に勧めることが出来ました。

#### ⑤その他 (13.3%)

回答例：恋愛危険度を知ることが出来るのは、とてもよいと思いました。/生徒たちが持っている不安解消と、自分のリスク度を知るためには、自分でこのようなサイトにアクセスすることで意識が変わり、その後の自分の意思決定や行動選択が自信をもって確かなものに変化していくと思っています。

#### ◆生徒の反応(養護教諭から見た)

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため（携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない）、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した29校のうち、「恋愛危険度チェック」サイト/カードについての自由記載のあった15校についての帰納的内容分析を実施した。

#### ①興味・関心をひいた (60.0%)

回答例：女子が2名でとりに来た。早速使用してみるといいがその後の話はない。/恋愛中の生徒なので積極的にアクセスしようとする生徒が多かったように思う。/保健室にあるほかのカード「インフルエンザの予防」「頭痛のはなし」「生理痛の話」などと一緒においておいたので、欲しい生徒は自然な形でスーッと「先生、ここのカードもらうでー」と気軽にもっていったとおもいます。/配布したときは「何？何？」という感じだったが、その後の反応はあまり感じない。/「携帯でできる」というところが生徒に受け入れられていた。/ネーミングがひきつけられる”危険度チェック”という部分で生徒は手に取り真剣にみていました。/真剣によんでいました。/楽しい、おもしろいという感想は聞かれたが、自分のこととして実感できたかどうか？ただし、友達に紹介したという声はとどいている。/明るい色のカードなので、手にとりやすく大切に持っておこうという意識を感じました。

② アクセスへの抵抗感 (13.3%)

回答例：空メールを送ると、迷惑メールが送られてくるようで、アクセスに抵抗があるようだった。コチラのほうにも安全なサイトであることを記載したほうがいい。/SSL通信になると「個人情報もれるのではないのか？」という不安から、アクセスをやめる生徒が多く見られた。有害サイトや危険サイトではないので安心して利用しても良いことを伝えた。

③ サイトへの失望 (6.7%)

回答例：生徒は占いのような気分でやったら、性感染症についてのことだったので、少しがっかりしていた。

◆変化(養護教諭から見た)

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため(携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない)、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した29校のうち、「恋愛危険度チェック」サイト/カードについての自由記載のあった15校についての帰納的内容分析を実施した。

● 相談のきっかけ (13.3%)

回答例：「彼氏にも教えてやってみた」という女子生徒がいた。カード利用をきっかけに相談にくるようになった生徒がいた。/今年度の段階においては、まだ実態は把握していない。ただし、このカードをきっかけに、生徒とのコミュニケーションづくりにつながったということは実感している。今後継続して活用していきたい。

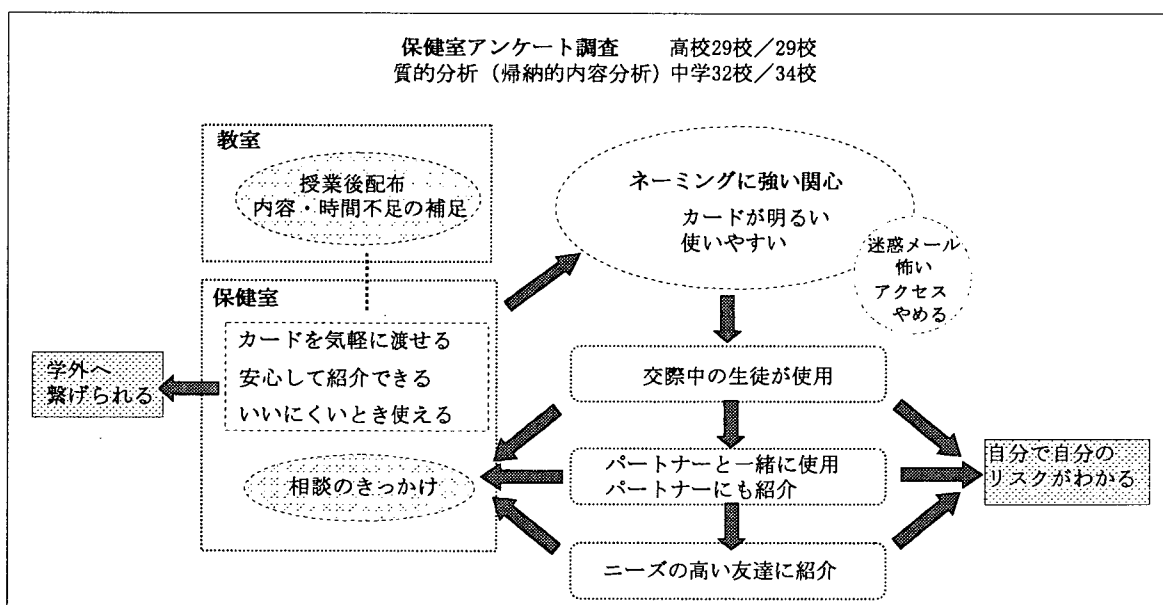


図9. 「恋愛危険度チェック」サイト/カードの感想

### (3) 「Questioning youth/同性愛者」向けカード

昨年度の全国保健室調査の結果より、養護教諭が極めて多忙な状況におかれていることが明らかとなった。相談業務がうまくいかない最も大きな理由は時間がとれないという理由とプライバシーを守れる空間がないという、時間的空間的制約であった。そのようなプライバシーの守れない空間の中で、しかも周囲の理解も不十分な環境の中での Questioning youth への対応として、当事者が運営するサイト、相談窓口を紹介したカードを作成した。ただし、そのカードを抵抗感なく入手できるように、他の予防サイトカードとセットで配置し、セットで、持ち帰ることにより、カードを入手した生徒が特定できないように配慮した。

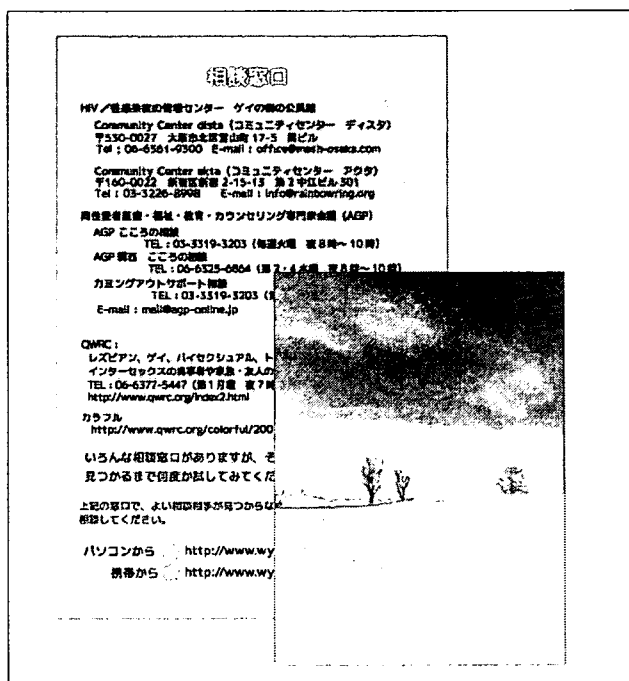


図 10. Questioning youth/同性愛者向けカード

#### ■「Questioning youth/同性愛者」向けカード（プロセス評価）

- ① **配布の有無**：プロジェクト参加校のうち「Questioning youth/同性愛者」向け予防サイトカードを生徒に配布していたのは、中学校 2.9%、高校 27.6%で高校では3割近くで配布されていた。
- ② **配布の方法**：高校では、「保健室での手渡し」が 50.0%と最も多く、「保健室で自由にとれるようにした」37.5%と予防サイトカードとは異なり、授業時の一斉配布ではなく保健室での利用が主であった。授業中の一斉配布を実施していた学校も 25.0%存在した。
- ③ **利用者の属性の特徴**：利用した学年は WYSH 教育の対象学年である高校 2 年生が多かった。

## ■保健室アンケートの結果

保健室プロジェクトに参加した養護教諭に対し、質問紙調査を実施し、予防サイトカードを使用した感想（自由記載）を尋ねた。これらの自由記載の質的データの帰納的内容分析を行った。但し、時間的な制約から、本報告書には、初期段階の分析結果の概要のみを掲載するにとどめる。

### (3)「Questioning youth/同性愛者」向けカードについて

#### ◆先生の感想

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため（携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない）、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した29校のうち、「恋愛危険度チェック」についての自由記載のあった8校についての帰納的内容分析を実施した。

#### ① 当事者に渡せた (37.5%)

回答例：本人より同性愛者であると話を聞いていた生徒に渡した。友人にも渡すように2枚余分に渡す。/他の生徒の目にふれないように、注意して配布した。それまで相談に来ていた生徒に対して配布した。/生徒から相談を受けたとき、自然な形で手渡すことができた。

#### ② 従来不足していた情報・効果的 (37.5%)

回答例：このような正しい知識が掲載されているカードを今まで持っていなかったもので、大変うれしく感じ多くの場面で利用させていただいています。/予防教育授業が1コマしかとれないので、より詳しく知りたい生徒や疑問を質問できない生徒がカードにあるサイトを利用していたので、とても効果的にタイムリーにカードが使用できたので非常に助かったと授業者から後日聞いた。/同性愛の生徒がいた場合には、とても効果的なカードであると思いました。

#### ③ 他のカード（予防サイトカード・恋愛危険度チェックカードなど）との相乗り効果 (12.5%)

回答例：「1枚ずつもっていこう」と他のカードと一緒に持っていく生徒がいた。

#### ④ 教員の意識向上 (12.5%)

回答例：偏見はそれほどないつもりなのですが、同性愛について語れるほど語彙をもっておらず、言葉を一生懸命搜していました。そこが超えられるともっと自由な気持ちで語れると思います。

#### ◆生徒の反応(養護教諭から見た)

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため（携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない）、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した29校のうち、「恋愛危険度チェック」についての自由記載のあった8校についての帰納的内容分析を実施した。

#### ① 同性愛の話のきっかけ (25.0%)

回答例：きれいな写真に興味をもってカードを見ていたが持ち帰る生徒は少なかった。その後の様子は不明。カードをきっかけに同性愛への偏見について生徒と話げできた。/同性愛という言葉に触れた生徒たちは少なからず動揺があったように思います。「いろいろな愛の形があるんだよ」と伝えたら「おーっ！」と納得してくれましたが。

#### ② 安心と関心の提供 (50.0%)

回答例：それまでアクセス先を十分に紹介できていなかったことで生徒は安心したようだった。/ほっとしたような表情が印象的だった。しかしその後来室しているが、カードのことは話題になっていない。/こんなサイトがあるのか。と興味深そうな様子で受け取っていた。/他のカードと同様に、真剣に読んでいました。

#### ③ 配布のしかた (25.0%)

回答例：保健室にあるほかのカード「インフルエンザの予防」「頭痛のはなし」「生理痛の話」などと一緒においておいたので、欲しい生徒は自然な形でスーッと「先生、ここのカードもらうで一」と気軽にもっていったとおもいます。/保健室の自由にお取り下さいのカウンターにおいています。沢山の子ども達が人目を避けて持って帰っていました。

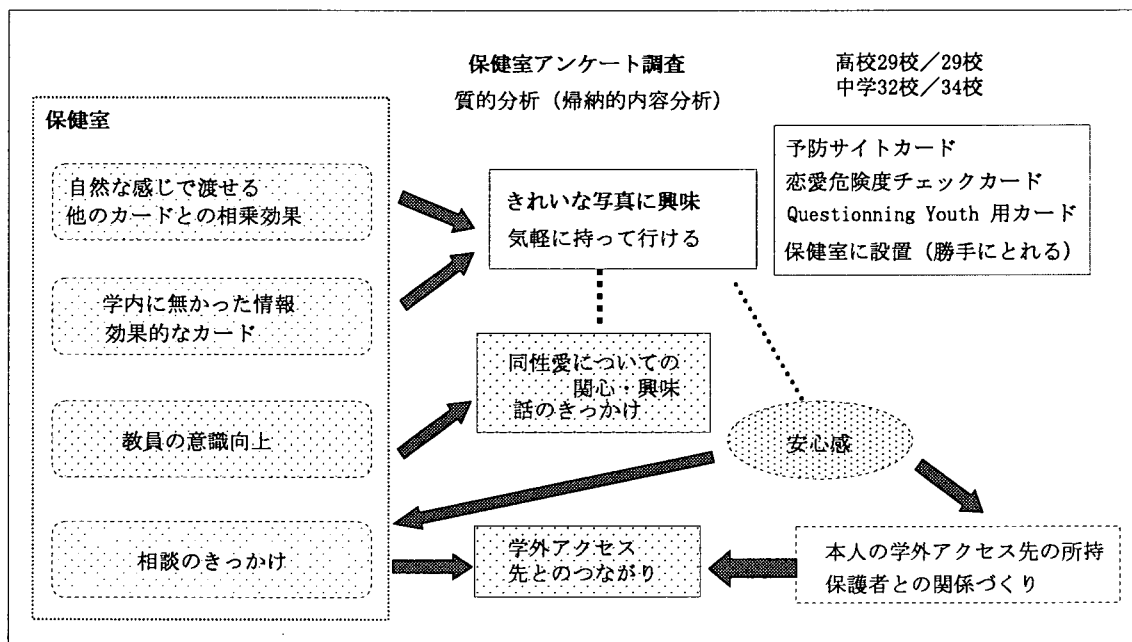
◆影響(養護教諭から見た)

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため(携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない)、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した29校のうち、「恋愛危険度チェック」についての自由記載のあった8校についての帰納的内容分析を実施した。

● 本人や保護者の支援 (12.5%)

回答例：中2くらいのときから「自分はそうなんだ」と思っていた男子生徒が、このカードを使用し、「このカードを持っているだけでとても安心した」と語った。その後、その生徒と色々な話ができるようになり、後日、母親も保健室にきてくれて、このカードの話になり「このカードから勉強できた」と報告してくれた。親はショックから気持ちを立て直すとき、正しい情報を知りたいので、このカードの情報はありがたいです。

図 11. Qusetionning youth/同性愛者向けカードの感想

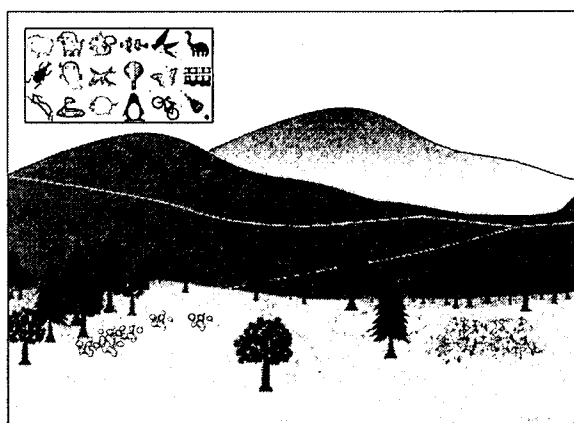




#### (4) 「アニマルダイアリー」シート

昨年度の全国保健室調査の結果より、養護教諭が極めて多忙な状況におかれていることが明らかとなった。相談業務うまくいかない最も大きな理由は時間がとれないという理由とプライバシーを守れる空間がないという、時間的空間的制約であった。そのような環境の中で、自分の悩みを言語化できないあるいは表現できない生徒は、何度も来室するが、なかなか養護教諭に相談できない状況が形成される。そこで、本プロジェクトでは、そのような生徒を対象に、作業を通して、自然に話ができるように、風景画シート（アニマルダイアリー）にシール（動物や乗り物のシール）を自由に配置し、日記のように日々の変化を記録することによって、遊びながら、気持ちをリラックスさせるツールを開発した。

図 12. アニマルダイアリー（シートとシール）



#### ■「アニマルダイアリー」（プロセス評価）

- ① **配布の有無**：プロジェクト参加校のうち「アニマルダイアリー」シートを生徒に配布していたのは、中学校 58.8%、高校 44.8%で中学校の方が多かった。
- ② **利用者の属性の特徴**：利用したのは中学校も高校も女子生徒が圧倒的に多く、利用者の8割は女子であった。利用した学年は中学2年生と高校2年生が多かった。

## ■保健室アンケートの結果

保健室プロジェクトに参加した養護教諭に対し、質問紙調査を実施し、予防サイトカードを使用した感想（自由記載）を尋ねた。これらの自由記載の質的データの帰納的内容分析を行った。但し、時間的な制約から、本報告書には、初期段階の分析結果の概要のみを掲載するにとどめる。

### (4)「アニマルダイアリー」について

#### ◆先生の感想

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため（携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない）、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した29校のうち、「アニマルダイアリー」についての自由記載のあった15校についての帰納的内容分析を実施した。

#### ① 話のきっかけ作り (33.3%)

回答例：コミュニケーションをとっていく上でのきっかけとなった。/最初はどのように利用したらよいか不安だったが、生徒との話題づくりに役立った。生徒も最初は「何これ」と言うが、結構楽しそうにやっていた。/話をしなくても、コミュニケーションをとるきっかけになると感じました。「これは何しているところ？」などと聞くことで、自分の話を始めたりします。/生徒と一緒に作業するので会話が弾む。しかし1人にかかる時間がとても長い。/しんどい話を聞く前のウォーミングアップになったと感じた。

#### ② 作業が楽しそうだった (13.3%)

回答例：どの生徒も興味をもって楽しそうに取り組んでいたが、レイアウトする作業に時間がかかっている、もっとインスピレーションがわくようなイラストにしてはどうかと思った。/最初はどのように利用したらよいか不安だったが、生徒との話題づくりに役立った。生徒も最初は「何これ」と言うが、結構楽しそうにやっていた。

#### ③ 教師が優しくなれた (6.7%)

回答例：最初は何を言っても答えない生徒にイライラしたが、生徒の心に近寄れたらいいなと優しい気持ちになれた。

#### ④ 作業に時間がかかる (13.3%)

回答例：どの生徒も興味をもって楽しそうに取り組んでいたが、レイアウトする作業に時間がかかっている、もっとインスピレーションがわくようなイラストにしてはどうかと思った。/生徒と一緒に作業するので会話が弾む。しかし1人にかかる時間がとても長い。

#### ⑤ 心の中を見られた感じ (6.7%)

回答例：あまり自分の事を表現しない生徒が、自分の周囲をどう見ているのかが少し分かった。自分の心の内の出来事をアニマルに置き換えて表現していた。少しは心の内が吐き出せたという良い面を思っていたが逆に「そこまでさらけ出してしまった、心の中を見られた感じ」と受け取った様子もあった。

#### ⑥ シートの図柄に関する要望・感想 (20.0%)

回答例：高校生にこの絵柄はどうかと思ったが、生徒は興味をもったようだ。3年生に実施したので、心の成長や対人関係の状況が表出されたように思った。授業での使用は箱庭の代用として提示（別の教師）/使用するタイミングが難しかった（場所・所要時間）。高校生としては絵が幼い気がした。・木がとがっているのが気になる生徒がいた。・動物等の絵の統一を、全体的に色のトーンが淡いほうがいい。・空・夜空・海バージョンがあってもいいのでは。（生徒の感想より）。/大きさも少し大きく、シールではなかったので、生徒の反応に少し要らない壁ができてしまった。が（のりづけを嫌がったので）そのようにしてふくわらいのようにその場限りで終わったりしました。

#### ⑦ その他 (6.7%)

回答例：高校生への実施継続することで変化をみてみたいと感じました。

#### ◆生徒の反応（先生から見た）

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため（携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない）、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した29校のうち、「アニマルダイアリー」についての自由記載のあった15校についての帰納的内容分析を実施した。

### ① 楽しそう・興味あり (60.0%)

回答例：最初が興味津々の様子。同時間帯に取り組んだ生徒と比較しあい、お互いに説明しあっていた（仲間作りに使えるかもしれないと感じた）。/楽しそうにやっている生徒が多かったが「何の意味があったの？」と不安そうにしている生徒もいた。/「うわー何かっわいい」と生き生きした様子で取り組んでいた。完成した絵を見て満足していた。/あまり考えることなく、ぱっぱとシールを置いていった。完成する頃には顔の表情が穏やかになった。/「心理テスト？」と警戒する生徒が何人かいたが、単なる暇つぶしとって渡すと時間をかけてたのしんでいる。それなりに考えて実施しているし、自分をみつめるきっかけとなっていると思う。（気付かなかった自分に気付く生徒もいる）/自分の周りの友達を全部登場させ、良い人間関係(友達との)の中にいることがよくわかるダイアリーを作った生徒は、生き生きと楽しそうで、私が聞いたことにもきちんと答えられたがいつも友達と一緒にいるのにその人達は一切登場せず自分と愛犬以外は架空のものばかりで「壊れた自転車」といって、シールを破いて貼ったり、「落ちてくる飛行機」を貼ったりした生徒は質問をしても「さあ」「なんとなく」「わからん」という答えが多かった。作成中はかなり集中して、笑顔もなく作成後も寂しそうな表情であった。/心理検査をされるのではないかと身構える生徒がいた。いったんはじめると楽しそうに活動していた。/やっているうちに、心を開いてくれる感じがしました。/最初は嫌がったりした生徒もいろいろ工夫してやっていました。

### ② 寂しい表情を見せた (6.7%)

回答例：自分の周りの友達を全部登場させ、良い人間関係(友達との)の中にいることがよくわかるダイアリーを作った生徒は、生き生きと楽しそうで、私が聞いたことにもきちんと答えられたがいつも友達と一緒にいるのにその人達は一切登場せず自分と愛犬以外は架空のものばかりで「壊れた自転車」といって、シールを破いて貼ったり、「落ちてくる飛行機」を貼ったりした生徒は質問をしても「さあ」「なんとなく」「わからん」という答えが多かった。作成中はかなり集中して、笑顔もなく作成後も寂しそうな表情であった。

### ③ 心理テスト的形態への不安 (13.3%)

回答例：心理検査をされるのではないかと身構える生徒がいた。いったんはじめると楽しそうに活動していた。/「心理テスト？」と警戒する生徒が何人かいたが、単なる暇つぶしとって渡すと時間をかけてたのしんでいる。それなりに考えて実施しているし、自分をみつめるきっかけとなっていると思う。（気付かなかった自分に気付く生徒もいる）

### ④ 図柄・シールへの要望・不満 (20.0%)

回答例：1時間程度、時間をかけて作成していた。イラストの種類に不満があったようで、途中で作業をやめる生徒もいた。/自分の思っていたものが印刷された用紙にないので、残念だといいながら作業していた。/「自分も良く分からなかった」「幼稚な気がする」と話していました。

## ◆影響(先生から見た)

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため（携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない）、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した29校のうち、「アニマルダイアリー」についての自由記載のあった15校についての帰納的内容分析を実施した。

### ① 心を開く・自分に気づくきっかけ (40.0%)

回答例：少しずつ心を開いてきた生徒がいた。/相談してこない生徒が、相談してくるようになった。/自転車が下り坂を走る方向にシールを置いていたので「自転車で坂を下ったらきっと風

がきもちいいだろうな」と声をかけた。すると授業中にトイレで泣いていたら、先生にみつか  
り「えらいなら（しんどいなら）保健室に行け！」と怒られたこと、信用していた友達が自分  
の悪口を言っていたと別の友達に聞かされてショックだったことを話した。/アニマルダイアリ  
ーの解説（動物などの説明）をしてもらうと意外な答えが返ってきたり、自分の心に気付いた  
りする生徒がいる。/具体例ではないですが、自分がどうありたいのか気付き、少し落ち着いた  
ようでありました。/高校生はなかなかかわいい小物的なものを使用しなくなる生徒が多いので  
（個人差はありますが）アニマルダイアリーで話を聞くとともに聞わず語りでゆったりとす  
ぎす時間が生徒の不調をやわらげ、自分で解決する力を導いてくれたと実感しています。遅刻、  
早退の多い生徒の使用後、早退がなくなった。

② **生徒の理解促進 (6.7%)**

回答例：ダイアリーを同じ生徒に2回実施してはいないが、1年からの状況を見知っている  
ので、その生徒がどの程度周りに関わっているのかが分かったように思う

③ **その他 (6.7%)**

回答例：特に変化は感じられないが、寂しそうな表情をした生徒は、あまり来室しなくなっ  
た。（しかし、最終学年であり他の生徒もあまり来なくなったので、一概には言えない。）

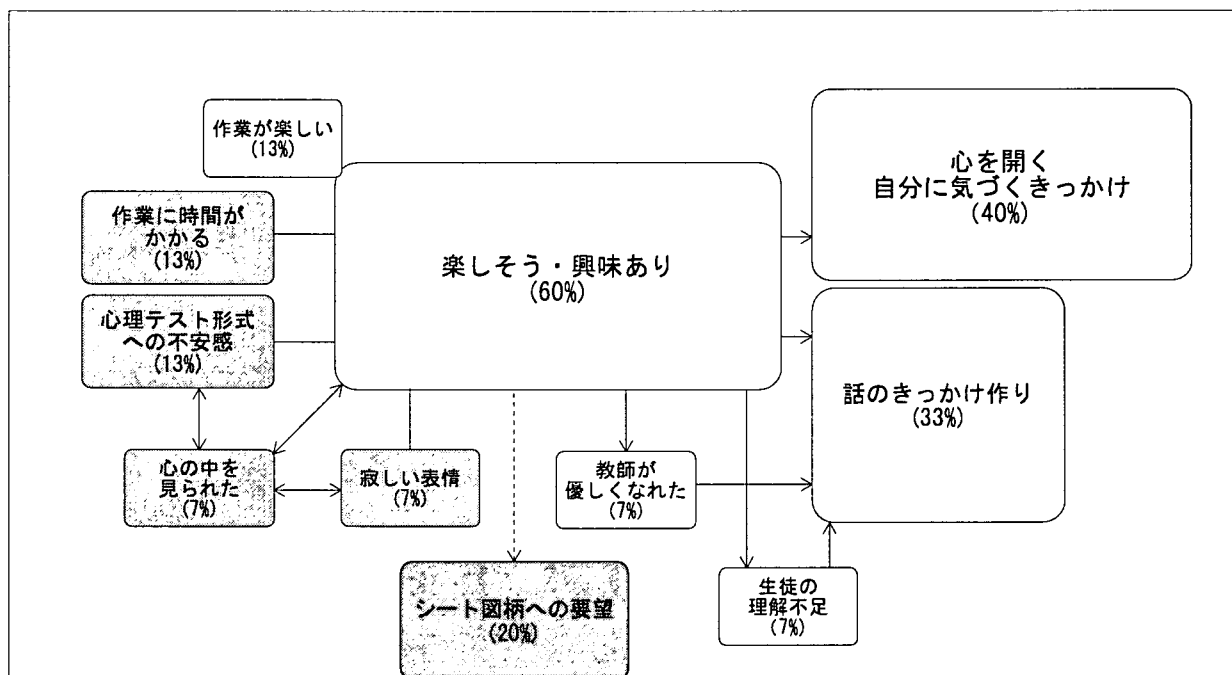


図 13. アニマルダイアリー（シート・シール）の感想